

第56期労働講に参加して

日本海地方伏木支部

末坂 紘基

6月12日～14日に開催された第56期労働講座に参加しました。

講座の内容については、「全港湾の歴史」「産別協定と事前協議制度」「組合強化とは、役員とは、組織運営はどうあるべきか」でした。3つの講座を受けた率直な感想としては、今日に至るまで諸先輩方が全港湾を立ち上げ、たたかい、勝ち取ってきた制度・政策があってこそ今の今があること。目まぐるしいほど変化していく時代に対し、組合員の雇用と生活を守っていくことは、昔も今も組合活動を行なっていく上での共通点・根源だということ強く感じました。

また、今後の組織・組合強化についてのグループ討論の中で若年層の「組合離れ」について話し合った中、2019年の年暮れから世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症がきっかけとなり行動制限がかけられ若年層だけではなく全体が「組合離れ」に拍車がかかったが、5類に引き下げられ少しずつ以前の活動に戻ってきた。その中で今後の私たちの使命として、教宣活動を進め、組合を身近に感じてもらいながら、組織マネジメント（人の強化）の部分についても精力的に行なっていこうと話し合い、私自身、再度、身が引き締まるグループ討論でした。

この3日間について、全ての講座でのまとめ、発表をさせていただきましたが、本当に私自身成長ができたと感じる労働講座でありました。この体験をしっかりと胸に秘めながら56期の仲間たちと共に全港湾の発展に向け尽力したいと思います。